平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

整理番号	9	ー	28

1　事務事業の表示

※ ■ ：　該当

事務事業名	林道維持管理事業					
評価者	担当課名		産業振興課	担当係名		林務係
	管理職	職名	課　長	作成者	職名	係　長
		氏名	石 井 弘 道		氏名	福　田　泰　弘
事業の概要	既設林道の路肩に草・灌木が繁茂し、見通しが悪く車両通行上危険な状況にあるので、路肩草刈や路面整正を実施する。また、降雨等による林道の損傷箇所について補修を行う。					

全体計画 /単年度繰返（平成 20 年度～ 24 年度）		
事業費	国・道支出金	5,000 千円
	地方債	千円
	その他	千円
	一般財源	13,688 千円
	事業費計	18,688 千円

実施方法	■	直　営		民間委託		その他　（　　）
第５期 総合計画（前期）	■	登載事業		非登載事業	優先度	B

事業の位置付け			
	政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～
	基本施策	2	林業の振興
	単位施策	2	多面的機能の発揮
	事務事業の種類	■	自治事務　　法定受託事務
	その他計画・根拠等		

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度（実績）	23年度（実績）	24年度（見込）
	国・道支出金	千円	千円	千円	5,000 千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額（一般財源）	924 千円	987 千円	1,953 千円	6,543 千円	2,620 千円
	合計	924 千円	987 千円	1,953 千円	11,543 千円	2,620 千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	林道の通行者	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	林道の路肩に草・灌木が繁茂し、見通しが悪く、また、林道の損傷により車両通行上危険な状況にある。	無事故		
		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	林道通行者の安全確保、林業経営の安定化を図る。	① 事故発生件数／林道通行車両の事故発生件数の実績	目標年度	平成23年度
			目標値	0 件
			実績値	0 件
			達成度	#DIV/0! %
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	林道通行者の安全確保	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%

内　容（どのような手段で何を行ったか）	
①維持管理の委託	林道通行者の安全確保、林業経営の安定化を図るため、奥幌内本流線ほかの路肩草刈・立木整理を行う委託業務を実施。
②民間業者による工事の実施	集中降雨により、奥幌内線林道の法面の一部が崩落したため、入札により民間業者に工事を発注し、林道の補修工事を実施した。

3 事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	林道は林業経営のみならず、レクリエーション・教育・保健休養など様々な形で利用されており、通行者の安全確保のみならず、防災上の観点からも林道維持管理、補修は必要である。 当該事業を実施しない場合、既設林道の劣化を招き、車両通行に支障を来たす。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■達成 □ほぼ達成 □下回る	当該事業を実施したことにより、林道通行者の安全確保が図られた。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 □事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 ■その他	利用頻度の高い路線の路肩草刈を2回、その他を1回とするなど、利用頻度を考慮した必要最小限の維持管理を実施している。 また、林道の損傷箇所について、緊急的な対応を行うため、早急に対応できたことは、被害拡大の防止が図られ、効率的であると判断する。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	林道は誰でも利用することができるので公平である。

4 総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
林道通行者の安全確保のみならず、防災上の観点からも林道維持管理、補修は必要であり、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持		
多面的な機能を有している森林を維持管理するために必要な基盤施設であり、効率的な森林施業の推進と森林の総合利用のため、林道の適切な維持管理、補修を継続して実施する必要がある。当分は現状維持が適当である。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5 その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）